○ ○ ○ ○ ○

地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

第36回例会　テーマ「膠原病における自己抗体」

出席者：22名
日　時：2005年１月26日（水）18:45〜
場　所：平塚市地域医療管理センター
司　会：西沢春彦（平塚共済病院皮膚科）

Ⅰ　アレグラ商品説明（18:45〜19:00）
　　アベンティスファーマ株式会社
Ⅱ　講演（19:00〜20:00）
　　講師：佐藤伸一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　皮膚病態学教授）

【要旨】：膠原病は自己抗体の出現が特徴的であり、そのため自己免疫疾患に位置づけられている。自己抗体の検出、種類、力価の変動は膠原病患者を診察する上で有用な臨床情報となる。しかし、実際の現場でその意義付けに迷う場合もしばしば遭遇する。例えば、蛍光抗体間接法による抗核抗体の力価は何倍以上であれば臨床的に意味があるといえるのか？など日常診療の上で知っておくべきことが多数ある。さらに保険診療では検出できないものの、抗RNAポリメラーゼ抗体など臨床的に重要な自己抗体も多数知られている。最後に自己抗体は膠原病の病態形成に密接に相関すると信じられているが、実際には自己抗原は細胞内の分子であり、自己抗体は細胞膜を通過して細胞内には入れず、自己抗体は抗原と反応することはできない。この観点から自己抗体は膠原病の病態に直接関与していないという考えもあり、自己抗体が膠原病の病態形成にいかに関わっているかについても説明したい。

Ⅲ　症例検討（20:10〜20:30）
　　木花いづみ（平塚市民病院皮膚科）：ステロイドパルス療法を行なった強皮症の１例
　　西沢春彦（平塚共済病院皮膚科）：抗核抗体（抗セントロメア抗体）強陽性がみられ強皮症が疑われた１例
　　栗原誠一（湘南皮膚科）：NSAID（ブフェキサマク）外用剤による皮膚炎
Ⅳ　懇親会（20:30〜）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、アベンティスファーマ株式会社　　（文責：西沢春彦）

第37回例会　テーマ「ダーモスコピー診断演習」

出席者：37名
日　時：2005年５月25日（水）18:45〜
場　所：グランドホテル神奈中平塚
司　会：木花いづみ（平塚市民病院皮膚科）

Ⅰ　**挨拶**（18:45～19:00）

塩野義製薬株式会社

Ⅱ　**総会**（19:00～19:10）

Ⅲ　**講演**（19:10～20:10）

講師：田中　勝（慶應義塾大学医学部皮膚科教室助教授）

【要旨】：ダーモスコピーの原理と機器を説明する。ダーモスコピーは、エコージェルなどで乱反射を抑制し、光源で明るく病変を照らし、10から30倍の倍率で真皮浅層までの色素分布を観察する無侵襲の診断器具である。主に色素性皮膚病変の診断に有用である。皮溝平行パターンと病理組織との関係を皮丘・皮溝、汗孔などに着目しながら解説する。また、色素ネットワークができる理由を解説する。基底部のメラニンは表皮突起先端部に優位で、表皮索の構築と真皮乳頭の関係が色素ネットワーク構成に寄与することを示す。全体像および局所所見を表す用語の定義・実例を示し、世界共通の用語を理解する。実際の所見の取り方を説明し、２段階診断法を紹介する。第１段階はメラノサイト病変か否かを鑑別し、第２段階でメラノサイト病変が良性か悪性かを判別する。例題を示して演習を行い、用語の定義を再確認する。

Ⅳ　**懇親会**（20:20～）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、塩野義製薬株式会社　　（文責：西沢春彦）

第38回例会　テーマ「WOCナースが行うスキンケア」

出席者：130名

日　時：2005年９月７日（水）18:45～

場　所：平塚プレジール

司　会：田中一匡（田中皮フ科クリニック）

Ⅰ　**ユーパスタ商品説明**（18:45～19:00）

興和株式会社

Ⅱ　**講演**（19:00～20:00）

講師：真田弘美先生（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻　老年看護学分野教授）

【要旨】：WOC認定看護師の活動は、褥瘡対策未実施減算を機会に大きな飛躍を遂げた。しかしWOC認定看護師は、褥瘡などの創傷ケアばかりでなく、ストーマケア、失禁ケアといったスキンケアを専門職としてその役割を担ってきた。WOC認定看護師が行うスキンケアは、まず皮膚を清潔に保つことであり、特に排泄物からの皮膚の保護が最も重要な看護技術とされている。なぜならば、ストーマのスキントラブルはその多くが排泄物による接触性皮膚炎であること、また褥瘡好発部位である仙骨部は特に排泄物による汚染が多いこと、そして下痢などの失禁は肛門周囲に容易に皮膚糜爛を発生させるからである。

この排泄物から皮膚を隔離するSealingこそが、WOC認定看護師の技である。ここでは皮膚保護剤を用いたストーマケア、創傷被覆材を用いた褥瘡ケア、そして肛門装着用皮膚保護剤を用いた下痢対策を概説する。さらにこれらの技術に必要となる新しいケア用品の開発について当教室の取り組みを紹介する。

Ⅲ　**症例検討**（20:00～20:30）

高部由衣（平塚共済病院褥瘡対策チーム看護師）：多発し難治であった褥瘡の２例

前田まゆみ（平塚市民病院看護師）：尿管皮膚ろう造設後、ストーマ周囲に潰瘍を形成した１例

Ⅳ　**懇親会**（20:30～）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、興和株式会社　　（文責：西沢春彦）

○ ○ ○ ○ ○

地域医会だより

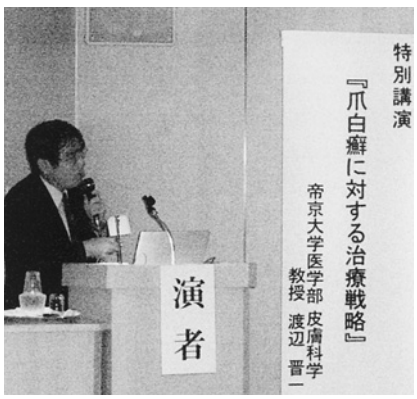
三浦半島皮膚科懇話会
横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会

三浦半島皮膚科懇話会　第34回例会
横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会　第17回例会

日　　時：2005年2月5日（土）17:30～
場　　所：横須賀プリンスホテル
製品紹介：アレルギー性疾患治療剤「アレジオン」（三共株式会社）
特別講演　livedo―血管炎と循環障害の境界
講　　師　勝岡憲生（北里大学医学部皮膚科学教授）

「livedoとは、皮膚の真皮・皮下境界部の血管の閉塞性循環障害によって生じる網目状の潮紅を呈する皮膚病変で、その原因は、うっ血、血栓、塞栓、壁の肥厚（沈着）、血液成分の異常など様々であり、その一つに血管壁の炎症、すなわち血管炎がある」（西山茂夫）。livedoは機能的な循環障害によるcutis marmorataと、器質的循環障害に基づくlivedo racemosaに大別され、その中間にlivedo reticularisがある。中でもlivedo racemosaは、真皮・皮下境界部の小動脈の狭窄ないし塞栓を呈し、種々の全身性疾患に合併して病初期に現れることもあり、病態を把握する上で重要な皮膚症状である。livedoは以上のように定義されるが、実際の臨床の場において、livedoを示す疾患の病態の本質を早期に的確に把握することは必ずしも容易でない。まずlivedoを見逃さないことが大切で、livedoの主たる原因が血栓または塞栓によるものか、血管炎の一症状であるのか、あるいはいわゆるうっ血によるものか、を可能な限り正確に理解することが適切な治療の選択につながり、予後を判断する上でも極めて重要であると思われる。

三浦半島皮膚科懇話会　第35回
横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会　第18回例会



日　　時：2005年10月22日（土）17:30～
場　　所：横須賀プリンスホテル
製品紹介　経口抗真菌剤「イトリゾールカプセル」（ヤンセンファーマ株式会社）
特別講演　爪白癬に対する治療戦略
講　　師　渡辺晋一（帝京大学医学部皮膚科学教授）

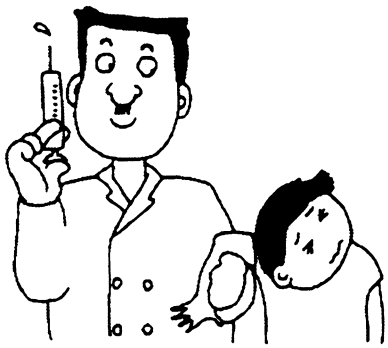
爪真菌症に対しては内服療法が治療の基本であるが、これに外用療法と爪の病変部を除去すると治療率はさらに向上する。爪真菌症治療の手順は、最初に直接鏡検か真菌培養で真菌が爪に存在することを確認し、問診と爪病変の病型、重症度により、内服療法が可能かどうか判定する。内服が可能かどうかわからない場合は血

液検査を行い、可能な場合は併用薬の有無および併用薬により、経口抗真菌薬を選別する。この時に、爪真菌症治療の意義を患者が納得するまで説明し、治療の動機付けを行うと同時に治療薬の説明を行い、最終的に患者に治療薬を選択してもらう。経口抗真菌薬が決まったら、それを内服させ、副作用等のチェックを行い、経過観察する。また経口抗真菌薬を内服できない患者はもちろん、経口抗真菌薬内服中の患者にも爪の病変部の除去療法と外用療法の併用を行う。治療開始後は注意点などの生活指導を行うが、治療を継続できるような動機付けも行う必要がある。

Information

原稿募集

随筆　写真　絵　イラスト　何でも歓迎いたします。



以下の様な仮の題にても原稿をお待ちしています。

A）お宝拝見　→　秘蔵の一品
B）秘伝&私の工夫etc.
C）うまくならないGolfの話
D）患者さんに教わったこと
E）教授こぼれ話
F）私の近くのこんな店

等です。どしどしお寄せ下さい。原稿は原稿用紙数枚分（最長10枚）。
パソコンで書かれた方は、フロッピーまたはCD-Rも送ってください。
顔写真（スナップでも構いません）もお願いします。
原稿・写真はE-MAILでも受けつけます。
10月末までにいただいた原稿は、翌春の号に掲載いたします。

宛て先
〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
済生会横浜市南部病院　木花　光
TEL 045(832)1111
FAX 045(831)0833
E-MAIL konohanaa@nanbu.saiseikai.or.jp